



2009年3月26日

STI プラン契約者各位 様

2008 年度運用利回りとその数字に関するコメント

首題の件、先般、OEF 基金並びにデロイト (STI プラン監査法人) より STI プラン 2008 年度の単年度運用利回りが下記の通りに、年次報告書の発行に先立ち発表されました。

カナダドルプラン: 4.39%

アメリカドルプラン: 3.90%

■政策金利と STI の運用利回りの関係

2008 年秋のリーマンショック以降、急速に悪化する世界経済、日本経済の状況に鑑み、アメリカをはじめとする世界各国は、その政策金利を過去に例を見ない数値まで引き下げています。

各国の政策金利

	日本	0.1%
	アメリカ	0.25%
	EU	1.5%
	イギリス	0.5%
	カナダ	0.5%
	スイス	0.25%
	オーストラリア	3.25%

(2009年3月1日現在)

このような政策金利の引き下げは、当然の事ながら市中銀行の預金金利、貸し出し金利並びに債券の金利 (国債の金利) 等にも影響が及び、これらの金利も下降傾向に向かう事になります。

ご存知の通り、日本においては、1985 年のプラザ合意後、20 年以上に渡り OECD 加盟 20 か国の中での各国との合意に基づき、意識的に低金利政策を取ってきました。100 年に一度と言われる今回の世界的な経済危機の中で、日本は、下げるべき政策金利が無いにもか

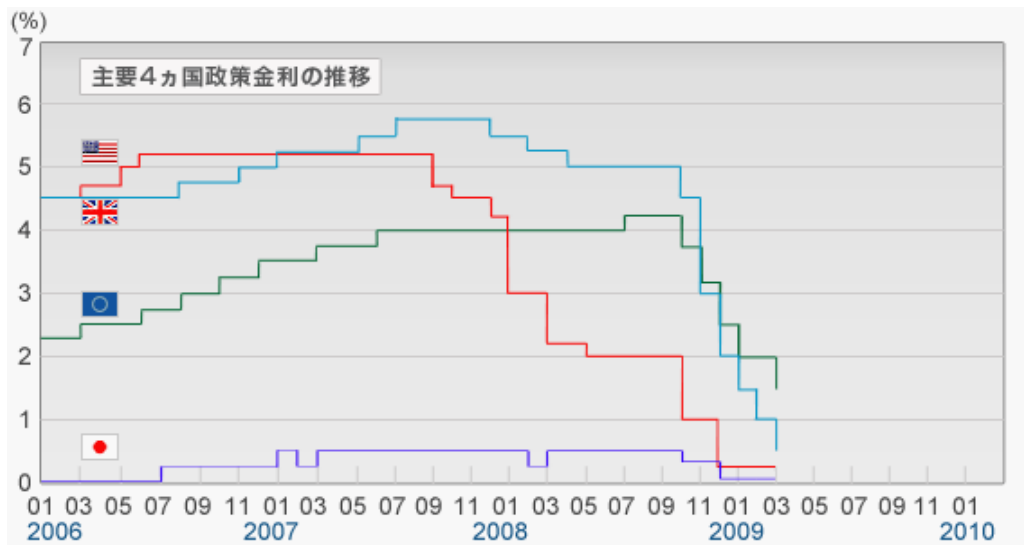
STI 学資積立プランアジア地区総代理店
1184 West 6th Avenue, Suite 101
Vancouver,
BC, Canada V6H1A4



Tel: 604.739.9294 Fax: 604.739.9443
Toll Free: 1.888.KIKUCHI (545.8244)
E-mail: info@kikuchigroup.com
URL: http://www.kikuchigroup.com



かわらず、各国に歩調を揃える為に、0.2%の政策金利から 0.1%に金利を下げました。ただし、実質的に実態経済に与える影響は軽微なものとし機能しませんでした。
 下記のグラフは、2006年より2009年までのアメリカ、EU、イギリス、日本の政策金利の推移を表したものです。



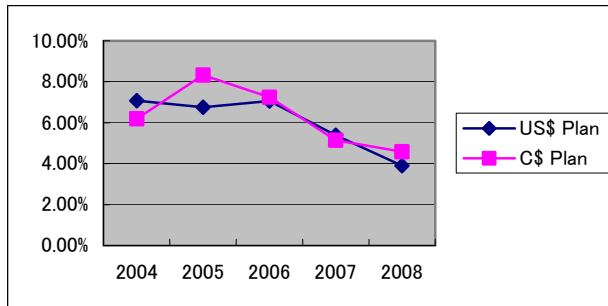
このグラフを見て頂くとご理解頂けると思いますが、2008年初頭にアメリカにおいてサブプライムローン問題が発覚して金融危機の懸念が叫ばれた頃、アメリカはその政策金利を急激に下げています。更に、2008年秋のリーマンショック以後に更に急激な金利引下げを行い、EU、イギリスもそれに追随して政策金利の下げを断行しております。
 しかしながら、日本の金利は、2006年7月にバブル経済崩壊後の手当てとして長く続いってきた0%金利政策を脱した後、2009年初頭まで概ね政策金利は安定した動きを見せていると思います。

以上の結果、日本を除く先進6か国においては、現在のような限りなく0%に近い政策金利の状況は危機に対処する為の異常とも言える状況であり、世界経済の回復と共に、本来のあるべき数値に回復するものと考えております。

STI プランにおいては、周知の通り、アメリカ、カナダ国債において皆様の積立金を運用しているため、政策金利の影響を受けて国債利回りの下落が発生すれば、当然のように単年度運用利回りは下落します。



■STI プラン運用利回り(2004 年度から 2008 年度)



	US\$ Plan	C\$ Plan
2004	7.08%	6.19%
2005	6.76%	8.32%
2006	7.07%	7.24%
2007	5.39%	5.14%
2008	3.90%	4.39%
平均利回り	6.04%	6.29%

このグラフ・数値と前掲の政策金利のグラフを比較して頂くとご理解頂けると思いますが、プランの運用利回りは、政策金利の変遷と連動して推移しています。プランの単年度運用利回りはその年の政策金利より高い利回りを示している事がご覧頂けると思います。

この理由は、プランが 10 年債より 30 年債という中長期の償還期限を持った国債で運用されている事、並びに OEF 基金よりプランに対しての寄付が毎年行われている事により、政策金利より高い運用利回りを維持しております。

■STI プラン受取予想額について

2008 年秋の金融危機以降、多くのお客様より期待していた運用利回りまで数字が届いていないとのご指摘を受けております。しかし、加入時に提示している予想受取金額のお見積書にも記載しているように、見積書上の数字は、あくまでも予想値である事を再度、ご了承頂きたいと思っております。同時に、STI プランの学資金受取りに影響を及ぼす運用利回りは、単年度の運用利回りではなく、加入年よりプラン満期までの中長期の期間による平均運用利回りでの算出となる事を申し添えさせていただきます。

ちなみに、2004 年～2008 年までの各プランの平均運用利回りは、カナダドルプラン 6.29%、アメリカドルプラン 6.04%となり、プランの運用利回りは決して低い数字ではないと社では考えております。現在の予想では、2009 年度の運用利回りも今の金融情勢の中では決して高い数字を期待できるものではありません。しかしながら、**この経済危機の回復と共に、金利の上昇も見込まれ、本来のあるべき金利状況に回復していくもの**と、基金、並びに社では考えております。

お客様におかれましても、プランの本質である学資金形成を「時間を掛け安全に効率良く行う」という意味を再度、ご理解頂ければと思います。

STI 学資積立プランアジア地区総代理店
1184 West 6th Avenue, Suite 101
Vancouver,
BC, Canada V6H1A4



Tel: 604.739.9294 Fax: 604.739.9443
Toll Free: 1.888.KIKUCHI (545.8244)
E-mail: info@kikuchigroup.com
URL: http://www.kikuchigroup.com